

受賞者《明石市》

＜官民一体となった公共交通利用促進による環境負荷低減＞

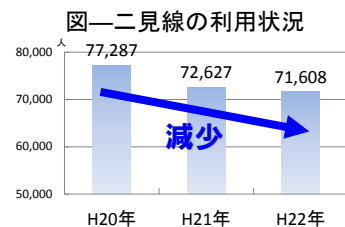
- ・行政が主体となり、バス事業者と企業が連携し、工業団地の従業員の通勤手段をマイカーからバスへ転換する取組みを行い環境負荷の低減を推進している。
- ・エコ通勤の推進組織を発足させ、路線バス増便社会実験、違法駐車対策等を行った結果、社会実験前と比較して、バスの利用者が約 161 人/日 (+60.0%) 増加、マイカーからの転換による CO₂ 排出量を年間約 51.4 トン削減した。また、社会実験終了後も継続的にエコ通勤の啓発を行った結果、平成 25 年 6 月では、利用者が約 204 人 (+76.4%) まで増加している。

1. 取組みのきっかけ

二見臨海工業団地（以下、工業団地）では、通勤に使用されるマイカーが約 5000 台/日出入りするため、周辺地域では交通渋滞や交通安全、環境負荷に係る問題、工業団地内では道路や港湾敷地等に多くの違法駐車が発生するなど様々な影響を与えていました。

一方、工業団地と最寄りの山電西二見駅を主に結ぶ山陽バス二見線（以下、二見線）は年々利用者が減少傾向にあり、路線維持していく為には利用促進が必要となっていました。

また、平成 21 年度に工業団地の一部企業に対してモビリティ・マネジメントの一環で実施したアンケートの結果から、バスの利便性向上を望む意見も多くありました。



図一 工業団地周辺の交通状況



図一 違法駐車状況



2. 取組みの内容

マイカーからバス通勤への転換を促すために、二見臨海工業団地企業連絡協議会（以下、協議会）、山陽バス、明石市の三者で「エコ通勤を進める会」を発足し、路線バス増便社会実験を平成 23 年 4 月 1 日から 6 カ月間実施しました。社会実験では、説明会やセミナーなどを通じた工業団地の交通課題の周知やマイカーから公共交通への転換を促す「エコ通勤」の啓発のほか、二見線全便の JR 土山駅への起点延伸や夜間便の増便による利便性の向上を図るとともに、バスカードの割引などの特典付与による利用促進策を展開しました。

さらに、工業団地内の違法駐車への対処として、市と兵庫県が連携して港湾敷地等の公共敷地を封鎖するとともに、市と協議会で駐車のマナーアップを啓発しました。

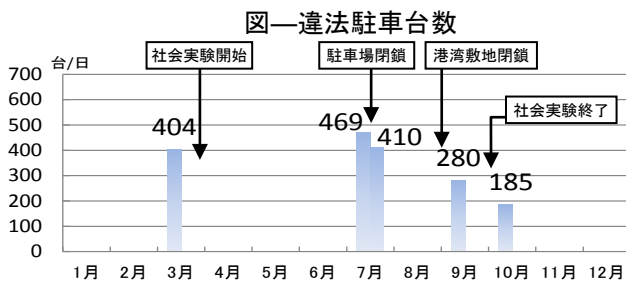
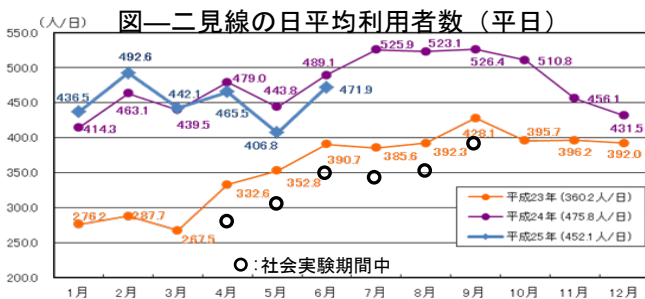
図一 周知活動の一例（かわら版、チラシ、説明会）



3. 取組みの成果

二見線の平日1日当たりの利用者が社会実験前の3月には267.5人/日でしたが、社会実験最終月の9月には428.1人/日と1.6倍に増加しました。これに伴いJR土山駅の利用者が約80人/日、山電西二見駅でも70人/日増加する結果となり、公共交通全体の利用者増にも繋がりました。

また、島内の違法駐車についても大幅な改善が見られました。



4. 社会実験後の取組み

社会実験中の乗降調査結果を踏まえ10月以降も全便JR土山駅発着を維持し、エコ通勤の啓発も継続した結果、1年後の平成24年7月には500人/日を突破しました。また、利用者増に合わせて、バスの大型化や工業団地内にバスカードの販売拠点を設けて利便性の向上を図るなど、継続的な利用促進に取り組んでいます。



明石市



市長
泉 房穂

〒673-8686

兵庫県明石市中崎1丁目5番1号

電話 078-912-1111 (大代表)

URL <http://www.city.akashi.lg.jp/>

明石市の概要

(平成25年7月1日推計)

人口 290,819人

世帯数 119,503世帯

面積 49.25 km²

明石市総合交通計画 [平成24年度改定版]

◆5つの基本戦略

基本戦略1

【公共交通を中心とした交通体系の構築】(マネジメント)

施策方針 ▶▶▶

- ①公共交通機関や交通施設の有効活用方策の検討
- ②利用者の特性に応じた交通手段の充実

基本戦略2

【利便性や安全性の高い交通環境づくり】(質の向上)

施策方針 ▶▶▶

- ③移動や乗り継ぎの円滑性向上
- ④各交通手段における安全性・快適性の向上
- ⑤交通結節点の機能強化

基本戦略3

【低炭素型社会実現に向けた取り組みの実施】(環境負荷の軽減)

施策方針 ▶▶▶

- ⑥自動車依存からの脱却
- ⑦公共交通利用の促進

基本戦略4

【活発な交流の促進】(交流促進)

施策方針 ▶▶▶

- ⑧中心市街地や地域核における活性化と交流の促進
- ⑨近隣市町や地域間との交流を促進する交通ネットワークの形成

基本戦略5

【公共交通をともに育む意識の醸成と実践】(参画と協働)

施策方針 ▶▶▶

- ⑩計画段階から施策実施にわたる各主体の参画と協働
- ⑪公共交通を「地域でまもる」意識の醸成